



監査委員会

役員、管理職の委託責任に効果的に対応



論題

1. 序論
2. 委託義務
3. 監査委員会の有効活用
4. 結論



序論

- 監査委員会は財務報告に関する問題に取り組んでいる
- オーストラリア及び、アメリカ合衆国における近年の崩壊により明らかにされたこと
- O'Kelly氏によると、アメリカ企業の財務報告対しては現在も嚴重な調査が続いている
- 監査委員会を有効に活用し、望ましい成果を得るために必要な情報と作業が求められる



序論

財務報告に関して、監査委員会に望まれる成果は2点ある

- ・ 詐欺を始めとした粉飾決算を発見、回避、訂正すること
- ・ 財務報告リスクなどの鍵となるリスクを決定し、これらのリスクに対して、許容可能な管理を確実に導入する。



委託義務

定義

- スキル
- 通知義務
- 専門家のアドバイスを求める義務



委託義務

財務諸表の見直しと検討

- ・ 外部報告の一貫性の評価
- ・ 外部報告を裏付けることのできる管理手順の評価
- ・ 監査委員会による危機管理、内部監査および管理制度の見直しの結果
- ・ 内部監査機能の実績と客観性の評価
- ・ 外部監査人の独立性と権限の保証



監査委員会の有効活用

- 監査委員会の構成
- 監査委員会の権限
- 監査委員会の情報源
- 監査の委託義務
- 監査委員会の有効活用とは？



結論

- 監査委員会に対して顕著な疑いがある
- 役員、管理職が独立した立場でいられるかということに関しての疑い
- ブルーリボン委員会は監査委員会を3本足の椅子と表現した
- つまり、監査委員会は他の2本の足となる経営陣および外部監査人なしでは効果的ではない
- 監査委員会は受け入れ機関であり、詐欺や粉飾決算を検知する能力は持たない
- De Zoort他（2002）は、監査委員会に対する内部監査人のサポートは重要であると述べている



結論

- 内部監査人は様々な機能を果たす事が出来る:顧問職を構成するなどの非伝統的な監査業務
- 連邦金融機関調査評議会は、アメリカの銀行内部監査人は諮問論争を回避すべきだと推奨している
- 内部監査人の役割については再度検討の余地がある
- 監査委員会の有効活用は、経営陣からのサポートにより実現する
- 監査委員会のメンバーは有償行為を認識する必要がある
- 監査委員会のメンバーは熱心だけでなく、企業の支払能力に関して徹底的な調査を遂行するよう望まれる